あいさつ

会長　室　井　綽

兵庫県生物学会が30周年の記念式典をあげることになりましたのは，お互いに大変おめでたいことだと思います。30年前の5月に人丸小学校で発会式が行われました。その時の資料をこの会場の入口に展示しておりますのでご覧いただきたいと思います。当時は占領下でありまして，我々が会を作るとか，会誌を発行する時にはGHQに行きまして，その許可を得なければなりませんでした。そういうことで，私もGHQに呼び出しをうけまして，会誌や会の運営についていろいろと喚問がございました。そういう時に3時間も4時間も待たされまして，しみじみ占領下のかなしみをあじわったことでございました。そうした占領下でも皆さんがお互いに研究されまして，一般の指導にあたられました。かつて山鳥吉五郎という先生がおられました。この先生は県下の生物の神様のような人で，先生は「近いうちに学校教育は大学出の専門家ばかりになってくる。こういう時にこそ，我々がはたらいて一般常識を大衆に植えつけなければならない」ということを強く言われておりましたが，現在その通りの状態になり，先生の先見の明に感服しております。

30年の歴史をふりかえって，その大きなものをあげますと，昭和31年に神戸新聞会館で兵庫県生物展を1か月にわたって開きまして，私など学生時代から徹夜で勉強したということはなかったのですが，その時はじめて徹夜の仕事ということを体験させられました。39年には明石の天文科学館でも県下特産生物展を行ないまして，非常に多くの人に見ていただきました。また，昭和41年1月24日に，明石公園のお城の南側に明石市文化会館を造り，蓮池のあたりに道路をつけるということが，当時の金井知事と密約ができたということで，このきれいな明石公園を残すには生物学会の力がなければならないだろうということから，発起人が何人か集まりまして，この会場の入口に並べてありますような陳情書ができました。これを持って県庁へまいりまして知事や関係の部長に会い，明石公園を絶対に明石市に渡してはいけないということを陳情し，そのあとで，新聞記者を集めて一席やったところが，それが非常に大々的に報道されまして，その結果，この公園から明石の文化会館を放逐することになりました。今だに当時の知事さんに会いますと，お前があの時に来なかったら，おそらく明石公園の前は市の結婚式場になっていただろうという話が出ます。このことで，何人かの人から，「お前は夜，明石へ行ったら殺されるだろう」と言っておどかされたことがありましたが，一般市民や県民が新聞や雑誌にさかんに投書してくれまして，明石市も何とか折れて，海岸の方へ文化会館（市民会館）を持っていくということになりました。

次に「兵庫生物」のことですが，今から30年前は物価が今とくらべものにならないほど高い時期でしたが，その時に雑誌を出しました。その雑誌を出すにあたりまして，古い号を見ていただきますと，広告がたくさんのっておりますが，あらゆる所へ頭を下げてまわって，あの広告をもらってきたものです。今でもビオフェルミンの会社の前を通りますと，何回も足を運んで重役さんに頭を下げて資金をもらったことを思い出します。雑誌の出版には相当な金がかかることから，今も続いております生物問題集が出されるようになりました。あの問題集が出るようになりましてから，雑誌らしい「兵庫生物」になりました。今，古い号を見ましても，県内のいろいろな生物関係の記事が非常にたくさんに盛られております。皆さんもご覧になっていることと思いますが，当時の会誌はそういう経過で作られたものであります。

「兵庫生物」の他に「郷土の生物」と「兵庫県生物誌」が出されました。これらは当時の研究成果が豊富に盛られております。その他，「兵庫県植物目録」「県花・県鳥・県樹」「兵庫の自然」「続兵庫の自然」，が出されておりますが，このたび，30周年記念事業として，「新兵庫の自然」と「県下の天然記念物の写真集」を計画しております。いずれも神戸新聞社出版センターで印刷してもらう話がついております。

また，この機会に台湾の学術研修旅行団を組織しようということで，現在着々と準備が進められて，7月下旬に出発することになっております。

理科の4分野のうち，特に生物が県民に非常に力強く根を下しておりまして，常識を深めるという点では先端を行っております。県民の科学的な啓蒙に皆さんと一緒に力を合わせていきたいと思っております。そのために公開講演，その他を計画しておりますので，どうぞ皆さんの力を貸していただきまして一層盛大になりますようお願いいたしたいと思っております。

はなはだ簡単ですが挨拶に代えさせていただきます。（1976．5．22　30周年記念総会のあいさつ）